

東 準（あずま・じゅん）

1、プロフィール

小説家。小学校教員の傍ら小説の筆をとる。古典取材の作品から発想を転換、郷土史に素材をえた歴史小説を精力的に発表。博搜された史料の上に重厚な作品を構築した。

<生没>

1920(大正9)年6月20日 ~ 1994(平成6)年5月10日

<代表作>

歴史小説『西浜隊顛末記』『津軽戦国志 卅軍記』『岩木川』(5部作)

随筆『岩木川』

<青森との関わり>

五所川原市生まれ。郷土史に取材した歴史小説、随筆を執筆出版。

2、作家解説

小説家。大正9年(1920)五所川原市生まれ。本名外崎繁美。県立木造中学校、青森師範学校二部卒業。中学時代、日本・世界文学及び日本史に興味をもち耽読。師範時代には日本の古典文学を読みあさる。卒業後、小学教師となる。授業の傍ら生徒に“昔コ”を語り、昔コ先生と呼ばれた。後年の創作に大いに役立つ。2回召集され、戦後また教職に就く。下山俊三選の東奥日報「10枚小説」に応募、大伴家持が主人公の「泉」が入選する。石坂洋次郎選の「東奥小説賞」第5回(昭和39年)に「西浜隊顛末記」が入選。津軽戦国期の底辺を素材にしたもので、中央素材中心の創作姿勢の転換がみられる。「津軽太平記」(「青森民友」昭41年1月1日~12月30日)、「望郷春秋記」(「月刊あおもり」昭44年6月創刊号~昭和46年7月号)をそれぞれ連載する。昭和38年(1963)同人雑誌「西浜」(西北五文学を語る会)を木山きよし、有村智賀志らと創刊。昭和54年(1979)16号を発行。「神童」(創刊号)等、精力的に作品を発表する。北彰介を知り、児童

文学にも筆を染める。東奥日報「みちのく郷土史」(昭和 50 年 5 月～7 月)に 10 回執筆。また同社の「新・風土記あおもり」(昭和 56 年)の連載に、県下の地蔵様のいわれを追っての物語を執筆した。昭和 56(1981)年青森県芸術文化奨励賞を受賞。『津軽戦国志 卅軍記』(昭和 50 年 津軽書房)を書下ろし出版。津軽為信の生涯を描いた 560 枚の力作である。そして、安東一族の盛衰記『岩木川』(5 部作 昭和 53 年～昭和 59 年)を出版。準備期間を加えると 10 年の歳月をかけた労作である。この作品に関わっての随筆集『岩木川』(昭和 60 年 津軽書房)を出版、大作「岩木川」の総仕上げとする。

3、資料紹介

○『津軽戦国志 卅軍記』

図書

1975(昭和 50 年)5 月 30 日

190mm×135mm

津軽書房発行の書き下ろし長編歴史小説。全六章から成る。津軽統一を成し遂げた為信波乱の生涯を描く。史実を追いながら、為信に影のように付き添う伊賀の乱波小平太や“扇”と呼ばれた頃の為信と村娘“千里”の恋物語等を絡めて作品世界は展開する。